

大正五年八月一日發行

京師帝國大學法學科大學 經濟論叢

第三卷 第二號

論說

國防稅ノ本質

でうゝつぎ・ひゆーむノ經濟學說(四)

資本ノ眞概念ノ發展(三)

戰後ノ人口増加政策(二)

支那近代ノ戸口ニ就テ(三、完)

在外正貨ト兌換券ト關係ヲ論ズ

雜錄

服部氏ノ對ニ國際經濟論スルニ對スル向井氏ノ批評ニ就イテ

瀧本誠一氏ノ草芽ニ就イテ危言論議解題ニ就イテ

福田博士ニ答フ

戰時利得稅ノ諸學說及實例

英吉利ノ新稅

米國ニ於ケル船舶買收法案ニ就テ

經濟雜誌第五

統計書ノ概說

らぐれーミール學說ノ研究(三)

『通俗經濟文庫』ノ刊行

『經濟大辭書』ノ完成

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 河上 肇

米田庄太郎

内藤虎次郎

文學博士 小川郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 鈴木券太郎

法學博士 本庄榮治郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河田 嗣郎

法學博士 岸本熊太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 財部 靜治

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

法學博士 神戸 正雄

(載 轉 禁)

でりゐつゝひゆーむノ經濟學說 (四)

(英國ノ學問トシテノ經濟學ノ成立概觀)

福田 徳三

六

極端ナル商軍國主義ハふおるとれーヨリやらんとんニ至ル諸論者ヲ以テ一段落ヲ告ゲ英國ノ對外經濟思想ハ漸ヤク圓熟ノ境ニ入り廣汎ナル而シテ進歩セル立場ニ達スルヲ見ル。今此新傾向ヲ代表スルモノハ分ツテ三派トナス可シ、曰ク新商國主義學者、曰ク政治算術學者、曰ク哲學者是レナリ。ひゆーむハ即チ十八世紀ノ中葉ニ至リテ此三大分流ヲ湊合統一シテ英國ノ經濟學ヲ大成シタルモノニシテ彼ハ新商國論者トシテモ哲學的經濟論者トシテモ而シテマタ或度マデハ政治算術家トシテモ其最高項ニ立ツモノニシテ此等各箇ノ思潮ハ實ニひゆーむニ至リテ其最大ノ代表者ヲ得タルモノトス。

新商國論者ノ數渺カラザル中ニ就テ、予ハ其最モ傑出セルモノトシテ三人者ヲ舉グルヲ得可シト信ズ。即チにこらすばーぼん、さーだどれーのーす、ちやーれす。だぐなん是レナリ。

にこらす・ばーぼんハばうあー教授ガ評シテべてー及ろつくヨリモ其經濟論ノ透徹セル點ニ於テ勝リ殊ニ利子ノ學說ニ至リテハまつしー并ニひゆーむ出ヅルマデハ他ニ匹儔ナキ卓越ナル意見ヲ有シタリト云フ所ナリ。¹⁾ 然ルニ彼ハ永ク忘却裡ニ埋没セラレテ其銳キ見解ト汎キ觀察トハ毫モ顧ミラレズ、單ニ一ノ奇抜ナル保險論者トシテノミ知ラレ、而シテ死スルニ方ツテ學弟じよん・あすぢるニ遺言シテ予ガ遺ス借財ハ壹錢ダモ之ヲ支拂フコト勿レト云ヒタリトノ一逸話トヲ以テ記憶セラルルニ止マレリ。ばうあーガ精密周到ナル研究ヲ企テタルニヨリ彼ガ學問其價値ノ大ナルコト始メテ學界ノ注意スル所トナレル彼ガ薄運ハ轉々同情ニ堪ヘタルモノアリト雖モ今日ニ至リテハ其最傑著ハぼらんだー氏重刷叢書ニ收メアリまからつくモ亦其『稀觀經濟書集』ニ彼ノ『都市建造辨妄』ヲ納レタレバ²⁾ 吾人ハ彼ヲ度外ニ置キテ十七世紀ノ英國經濟學ヲ談ズルノ權能ヲ有セザルコトトナレリ。^{*}

ばうあーノ教ユル所ニヨレバばーぼんハ恐ラク千六百四十年ヲ以テ倫敦ニ生レ、千六百九十八年後事一切ヲじよん・あすぢる(又一箇ノ有力ナル經濟學者ナリ)ニ托シテ死ス。彼ハ和蘭らいでんニ於テ醫學ヲ修メ同うとれひとニ轉ジテ醫學ドクトルノ學位ヲ承ケ、千六百六十六年倫敦ノ大火ニ際シ再建事業ニ預テ效アリ、其經驗ヨリ終ニ火災保險事業ノ必要ヲ感ジ百万盡力ノ結果同八十一年英國最始ノ火災保險會社ヲ起シ續テ土地銀行設立ニ熱心シ『國立土地銀行』³⁾ 創立者ノ一人

(1) Stephan Bauer, Nicholas Barbon, ein Beitrag Zur Vorgeschichte der klassischen Oekonomie. Conrads Jahrbücher. 21 Bd. Neue Folge. SS. 561-590. (1890). - Article "Barbon," in Palgrave's Dictionary of Political Economy.

(2) 洋名共ニ下ニ出ヅル英國經濟學史ノ權威タルるつしあー斯拉ばーぼんノ事ニ就テ何ノ言フ所ナカリキ。蓋シる氏ハ未ダばーぼんノ著述ヲ見ルニ及バザリシナラン。予ハ之ヲ鑑マザルヲ得ズ

(3) National land Bank. 此銀行ハ間モナク解散セリ

タリシト云フ⁽⁴⁾。ばうあー評シテ曰ク『ばーぼんノ見解ハ若干ノ謬ヲ免レザリシト雖モ著シク時流ヲ拔クモノニシテ殊ニ價值、利子、地代、外國貿易等ニ關シテハ近世ノ學說ニ近キモノアリ』⁽⁵⁾。又タ其『貿易論』ニ就テハ曰ク『ばーぼんノ此著ハひゆうむ出テズあだむ・すみす出デザル前ニ於テハ貿易均衡說ニ對スル最有力ノ駁撃タリ』⁽⁶⁾ト。然ルニ『貿易論』ノ重刷ニ於テハ編者ほらんだーハ謂ラク、『ばうあー教授ガばーぼんノ此著ノ或ル箇所ハ彼ガべてゝろづく以上ノ學者タルコトヲ示セリトノ說并ニ彼ガ貿易均衡說ノ駁論ハひゆうむ及すみす以前ノ時代ニ於テハ最有力ノモノナリトノ說ハ彼ノ崇拜者ナラザルモノハ必ズシモ服從セザル可シ。然レトモ此書ハ今日猶ホ吾人ノ精讀ニ値シ彼ノ說ハ從來與ヘラレタルヨリモヨリ多クノ注意ヲほつぶすヨリひゆうむニ至ル英國經濟學史ノ研究者ニヨリテ與ヘラル可キモノナルコトハ誰人モ之ヲ拒マザル可シ』⁽⁷⁾ト。今予ハ仔細ニばーぼんノ著作ヲ繙續シタル結果一半ハばうあー教授ニ一半ハほらんだー教授ニ追從スルノ已ム可カラザルヲ認ムルモノナリ。ばーぼんハほつぶすヨリひゆうむニ至ル間即チ世界商權成立時代ニ於ケル英國ノ經濟思想發達史ニ於テ必ズ度外ニ置クヲ得ザル有力ノ一學者タルコトほらんだーノ言ノ如クナルノミナラズ彼ハ此間ニ於ケル最モ傑出シタル思索家ニシテ當時ノ現實問題ニ對シ最モ精到剴切ナル解説者タルコトハ之ヲ否ムヲ得ズ。ばうあーノ言少シク好ム所ニ偏スルノ嫌アルヲ免レズト雖モ彼ノ占ムル地位ノ如何ナルモノナルカハ即チ道ヒ得タリ。

(4) Hollanders' Reprint of "A Discourse of Trade" ノ緒言ヲ併セ見ヨ

(5) Palgrave's Dictionary Vol. I. P. 419.

(6) 同上書 P. 120.

(7) 前掲書緒言第一頁

ばーばんノ著述ニシテ注目ニ値スルモノハ左ノ如シ。

(一) 1684. A letter to a gentleman in the country giving an account of the two insurance offices ; the Fire Office and Friendly Society.

予未ダ此書ヲ見ズ。

(二) 1685. An Apology for the Builder : or a discourse shewing the cause and effects of the increase of building. London, print. ed for Care Pullen, at the Angel in St. Paul's Church Yard. 1685

假リニ『都市建造雜文』ニ意譯ス。此書收メテまがらしく『稀編經濟叢書』ニ在リ題名左ノ如シ。

A Select Collection of Scarce and Valuable Economical Tracts; from the originals of Defoe. Elking, Franklin, Turgot, Anderson. Schomberg, Townsend, Burke, Bell, and Others. with a Preface, Notes, and Index. (Printed by Lord Overstone for distribution among his friends, edited by J. R. McCulloch, Esq.). London 1859.頁一頁至四十六頁

(三) 1690. A Discourse of Trade. By N. B. M. D. London, Printed by thb. Milbourn for the Author. 1690

是ノ即チ著者ノ傑作ニシテ近頃ほらんた一氏ノ重刊スル所ナリ、其本ハ左ノ如シ。

A Reprint of Economic Tracts. Edited by J. H. Hollander (1905)

(四) 1694. An Answer to Paper entitled Reasons against reducing Interest to four per cent

前掲(三)ノ出版セラルルキ匿名ノ一論者 F. H. ナル人 Reasons against reducing Interest to four per cent 1694ナル書ヲ作

リテばーばんヲ駁撃セリ之ニ答ヘタルモノ即チ此書ナリ。

(五) 1695. An Account of the landbank, showing the Design and Manner of the settlement.

(六) 1696. A Discourse concerning coining the new money lighter. In Answer to Mr Locke's Considerations about raising the Value of Money.

此書ハらるるノ著者ナル利子論ノ批評ニシテ岸見ヲ載スルコト多シト云フ。予ガばーばんノ著ニシテ今日マデニ見ルヲ得ズ

ルモノハ「都市建造辨妄」ト「貿易論」トノニ過ギズシテ殊ニ此「改貨議」(詳シクハ「新貨輕貨論」)ヲ見ル能ハザルハ甚ク遺憾トスル所ナリ。同學ノ君子幸ニ收藏アラバ割愛テ切望ス。

右六部ノ中經濟思想史ノ上ニ不朽ノ價值ヲ有スルモノハ(三)ノ「貿易論」ナリ。利子學說ニ就テハ(六)ノ「改貨議」地代論人口論ニ就テハ(二)ノ「都市建造辨妄」共ニ捨ツ可カラズ。

「都市建造辨妄」ハ僅々數十頁ヨリ成ル小冊子ニ過ギズト雖モ之ヲひゅーむノ「古代都市人口論」ト併セ見ルトキハ趣味深キモノアリ。一篇ノ要旨ハ都市殊ニ倫敦ノ異常ナル膨脹ヲ非難スル當時ノ俗論ヲ斥クルニアリテ見テ以テ一ノ都市經濟論ト做ス不可ナラズ。彼曰ク「建物ノ一般ニ能ク整ヒ各家屋ヲシテ宛ラ一ノ建築ノ藍本タラシメタル古代ノ藝術家ハあせんす及其他ノ都市ヲ其建築物ニヨリテ有名ナルモノトシ其勝レタル技術ノ遺跡ニヨリテ今日猶其記念ヲ維持スルガ如ク現代ノ藝術家ハ倫敦ヲ其建築ニ於テ歐羅巴ノ首府トモ見ル可キ程ニ飾リ、實ニ倫敦ニ於ケル善良ノ家屋ノ數、其大ニシテ數多キ廣場、其住民ノ富ヨリ見レバ倫敦ハ世界ニ於ケル最大ニシテ最モ善ク建造セラレ最モ富有ナル都市ナリト云フモ溢美ニアラズ。然ルニ大ナルモノハ常ニ妬ミノ目的トナル。全世界ハ倫敦ノ繁昌ニ驚異ノ眼ヲ注ギ年々其膨脹スルヲ羨ミ從テ之ヲ呪フノ念ヲ生ズ。是レ世人ガ新家屋ノ増築ハ舊都市ノ地代ヲ下落セシメ其商業ヲ害ス可シトナシ、地方ノ人士モ亦倫敦ニ地方民ガ吸收セラレ地方人口ノ減少ヲ來シ終ニハ田地ノ小作人ナキニ苦ム可シト憂慮スル

ニ至ル所以ナリ。而シテ彼等皆謂ラク倫敦ノ増築ハ政府ニ危険ヲ醸シ國ノ發達ヲ不具ナラシム可シト。⁸⁾ばーぼんハ即チ此種論者ニ對シ其誣妄ト誤謬トヲ指摘ス可ク此書ヲ作レリ。故ニ彼ハ先ヅ論ヲ家屋増築即チ都市膨脹ノ原因ニ起セリ。曰ク都市膨脹ノ原因ハ死者ヨリモ生者常ニ多キテ、人類ノ自然的増加ニ在リ。増殖スル人口ハ(一)食(二)衣(三)住ニ對スル需要ノ増加ヲ招致ス。食ハ凡テノ物ニ共通ナル必要ナリ、衣ハ然ラズ、人類ニテモ寒地ニ住ミ乍ラ衣類ヲ纏ハザル種族アリ、即チ衣ハ生存ノ絶對的必要物ニアラザルコト明ナリ。衣料ニ對スル必要ハ多ク習慣ノ力ヨリ來ル。之ニ反シ、住ハ生兒養育ノ爲メ不可缺所ニシテ、所産兒ガ保護ヲ要スルコト多キ動物ハ皆住所ヲ構フ、兔、狐、獅子ノ如キ然リ。其然ラザル動物例ヘバ牛羊ノ如キハ住居ヲ作ラズ、サレバ家ヲ建ツル自然的ノ原因ハ幼兒ニ養育所ヲ興フルニ在リ。人類亦然リ。人口増殖スルニ從ヒ新シキ家屋ハ建設セラレ從テ都市ハ膨脹ス。是レ一ニ全ク自然的必要ヨリ出ヅト。ばーぼんガ都市膨脹反對論者ニ對スル論旨ノ根據ハ斯クノ如ク簡易ナルモノナリ。然ルニ彼ハ之ニ續キテ彼獨得ノ地代論ヲ主張セリ。曰ク、人類ガ文明ニ進ミ技術ヲ習熟シ善良ナル政府ノ下ニ立ツトキハ各人ハ必ズシモ自用ノ肉ヲ調理セズ自用ノ衣ヲ作ラズ自用ノ家ヲ建テス。彼ハ自己又ハ祖先ガ技術ト勤勉トニヨリテ得タル土地及貨物ノ所有ヲ享樂ス。此等所有ハ富者ト貧者トノ別ヲ生ズ。而シテ富者ハ他人ノ勞働ニヨリテ食衣住ヲ得ルモ貧者ハ自己ノ勞働ヲ費ヤサザルヲ得ズ。カク貧者ノ作

貨物ハ即チ富者ノ土地ニ對スル地代トナルナリ（何トナレバ自己ノ身體又ハ精神ヲ勞スルコトナクシテ十分ニ衣食住ヲ得ルコト是レ富者ノ謂ナレバナリ）。父祖ヨリ何物ヲモ承ケズ自己ノ勞働ニ儲餘ナキ貧者ハ他人ノ爲メニ又タ勞働ス。此ク他人ノ爲メニ費ヤス貧者ノ勞働ハ富者ノ所有ノ土地ノ地代トナリテ富者ニ飽食暖衣逸居セシムル所以ナリト云フ。即チ其所謂地代ハめんがいの『無勞所得』たむりん又ハまるくすノ餘剩價值ト同一性質ノモノナラズンバアラス。ばーぼんの卓見寧ロ驚異ス可キニアラズヤ。彼更ラニ進ンデ曰ク、人類ハ其享樂スル所ヨリモ其欲望スル所ニヨリテヨリ能ク區別セラル。職業ノ主タル任務ハ此等ノ機會ヲ充タス可ク各種ノ貨物ヲ作り之ヲ賣ルニ在リ。蓋シ餓、寒ヲ禦ギ幼兒ニ保育所ヲ與フル等ノ第一、次的、自然的、必要ヲ充タスヨリモ安樂愉快、榮耀ヲ進ム可キ物ヲ作り人ノ認識慾ヲ充タス爲メニ要スル勞働ノ方遙カニ多ケレバナリ。カクテ人ノ欲スル所ニ從ヒ大小各種ノ家屋ヲ作り之ヲ市場ニ提出シテ賃貸スルナリ。故ニ都市家屋ノ増築ヲ不思議ト考フル人ニハ人類ハ自然的ニ増殖スルモノナルコトヲ諒解セシメザル可カラズト。斯クノ如ク彼ノ都市膨脹論ハ人口増加論ヲ前提トシ増加スル人口ニ就テハ欲望増進論ヲ前提トス、彼ガ銳キ眼孔ハ當時ニ在ツテ優ニ時流ヲ拔キ後ノひゆーむ以降ノ經濟理論ト默契スル點鮮カラズ。彼ハましろへーるノ人口増加論ヲ詳カニ評騭シ其八箇ノ論點ノ當否ヲ考ヘどーむす、でー、ぶつく并ニ死亡表 (Bills of mortality) ノ研究ニヨル議論ヲ最モ有力ナリトシテ而シ

テ結論スラク、『多クノ小ナル政府ノ存在スル状態ハ其國ノ發達幼稚ナルノ證ナリ。政府ハ箇々ノ家族ニ起源スルモノナレバ小ナル政府ハ其起レル儘ノ家族ニ外ナラズ。カク幾多ノ小政府別立スルトキハ國ノ半ハ無用ニ歸ス。何トナレバ敵ニヨリテ其收穫ヲ害セラレンコトヲ恐ルルノ餘リ各小政府ハ其領域ノ周圍ヲ荒蕪ニ委ネ置クヲ例トスレバナリ。故ニ一ノ大ナル政府ノ下ニ統一セラルル場合ニ比シ一定ノ面積ノ養ヒ得ル人口數ハ少カラザルヲ得ザルナリ。又技術ノ發達スルコトナクンバ多數ノ人民共同ニ生存スルコト能ハズ農業ノ技術ニヨリ自然ノ状態ニ於ケルヨリモ十倍ノ民口ニ食ヲ給スルコトヲ得、又大都市モ起リ得ルナリ。技術ナクンバ食料ニ對シ支拂フ可キ工藝品ナシ、大都市ノ技術ハ即チ地方ノ食料ニ對シ支拂ニ供セラル可キ物ヲ作ルナリ』ト。此一節ハ彼ガ經濟發展史ニ關スル意見ヲ窺ハシムルモノアリ而シテ又タ後世ノ所謂生產要素論ノ根柢ヲナスモノト見ル可キナリ。而シテ彼ノ意見ヲ總括スル一句ニ曰ク、『天地創造ノ始ヨリ其政治ニシテ善良ナル限り人類ハ生ミテ而シテ殖ユルモノナリ』ト。茲ニ於テ彼ハ家屋増築ノ影響ヲ

(一)都市ノ發達(二)國運ノ伸張(三)政治ノ便宜ノ三項ニ分ツテ詳論ス。曰ク、家屋ノ新造ハ都市ニ利アリ何トナレバ之ニヨリテ舊家屋ノ賃與(レント)騰貴ス可ケレバナリ。都市ガ大ナレバナナルホド其家屋ノ價值ハ高マル、同一ノ便利ト品質トノ家屋モふりすとる、えきせたり、のーざむぶとんニ於ケル方近隣ノ小村ニ於ケルヨリ價值大ナリ。都市ノ中央ニ在ル家屋ハ市端ニ在ルモノヨリ價值

多ク新家屋ノ増築ニヨリ嘗テハ市端ナリシ家屋モ中央ニ近キコトトナリ從テ其價值ヲ増ス¹⁰⁾ト彼ガ「れんと」論ノ真意茲ニ於テ太ダ鮮明ナルヲ覺ユ。人口ノ増加ハ家屋ノ新築ヲ促シ家屋ノ増築ハ都市ヲ膨脹セシメ從テ又タ富者ノ得ル「れんと」ヲ高ムト云フハ或點ニ於テリかるとヲ豫想スルモハナルト共ニ「れんと」即餘剩價值論ニ會通スル所アリ。次ニ國運ノ發展ニ及ボス可キ影響ニ就テハ謂ラク、都市ノ膨脹ハ國家ニ取リテニ様ノ利益アリ一ハ地方ノ產品ニ對スル需要ヲ増スニハ地方ニ用ナキ人民ニ職業從テ生計ノ道ヲ與フ是レナリト¹¹⁾。政治ノ便宜ニ就テハ四個ノ理由ヲアゲ其一ニ曰ク都市ノ膨脹ハ大民統治ヲ遙カニ容易ナラシム。蓋シ地方ニ散居スル人民ヨリハ都會ニ集居スル人民ノ方治メ易ケレバナリト。まからつくハ此議論ニ反對シテ諸種ノ例ヲ擧ゲテ都會人民ノ却ツテ統治ニ難キヲ論ゼリ。今詳論ヲ省クト雖モ予ハ寧ロば一説ノ方遙カニ當ヲ得タルヲ信ズルモノナリ。彼曰ク、都市家屋ノ増加シ都市ノ膨脹スルハ人民ヲヨリ能ク治メ易カラシメ從テ一國ノ平和ヲ保ツ所以ナリ、第一ニ家屋ノ所有者勉メテ平和ノ維持ヲ圖ル可シ、戰爭ハ彼等ノ敵ナリ、地方ノ地主ハ一收穫ヲ失フノミニシテ戰終レバ再ビ其土地ヲ恢復シ得可キモ家屋ニ至リテハ然ル能ハズ第二ニ都市ノ空氣ハ平和ノ空氣ニシテ殊ニ大都市ニ集ル人民ハ常ニ主權者ノ監督ノ下ニ在ルガ故ニ之ヲ治ムルニ易シ。都市大ナレバナナルホド政治ニ利アリ又タ戰爭一度起ルトキ兵士ヲ集メ軍需品ヲ得ルニ甚ダ便アリト。

10) 前掲書第十六頁
11) 前掲書第十八頁
12) 稀觀集解題第六至八頁

彼ハ右ノ外都市膨脹ノ政治上ノ利益ヲ列擧シテ(一)人口増加ニ便ナルコト而シテ人口ノ増加ハ政治ノ第一義ナルコト、(二)下層民ニ職業ヲ與フルニヨリテ浮浪ノ徒ヲ減ズルコト、(三)人民ニ貨殖致富ノ機會ヲ多カラシメ從テ國富ノ増加ニ利アルコト、(四)主權者ノ財源ヲ豊ナラシムルコト、ヲ説ケリ。今彼ノ論旨ヲ綜括シテ考フルニ其都市論ハ必竟商工立國論ヲ反映スルモノニシテ彼ガ一代ハ傑作タル『貿易論』ト相對シテ一篇ノ内國經濟政策論タルモノナリ。其見解ハ甚ダ進歩的ニシテマタ他ノ偏頗極端ナル商軍國論ノ比ニ非ズ。彼ガ政策ノ根本ハまるさすニヨリテ着色セラレザル以前ノ人口増加論ナリ。ばうあー氏曰ク、『ばーぼんニ取リテハ商國富貴ノ誤ル可カラザル兆候ハ唯一即チ人口ノ増加是レナリ。人口ノ増加ハ即チ都市ノ膨脹トナリ海上力ノ擴張トナリテ顯ハルト』¹³⁾是レ後ノあーさー・やんぐガ其『政治算術』佛蘭西旅行記』等ニ説ク所ト全ク同一轍ニ出ヅ¹⁴⁾予ノ見ル所粗之ニ同ジキコトハ拙著ノ讀者ノ知ル所ナル可シ。¹⁵⁾好ム所ニ偏スルノ謗ハ予ノ敢テ辭セザル所ナリ。

遮莫ばーぼんノ都市膨脹論ノ眞價值ハ其自ラニ存スル非ズ其論ガ彼ノ代表的著作タル『貿易論』ノ前驅トシテ其論旨ノ多クヲ豫見セシムルモノアルガ爲メナリ。彼ガ倫敦ニ就テ、又タ一般大都市ニ就テ云フ所ハ要スルニ大英帝國ノ全體ニ就テ言ハントスル所ヲ縮寫スルモノタリ。謂フ所都市ノ膨脹ハ帝國膨脹ノ反影ナリ。彼ガ都市増築反對論ヲ斥クルハ即チ極端固陋ノ『めるかんちり

13) 前掲書第百二十一頁

14) 拙文「英佛戰當時ニ於ケル兩國大小農制度ニ關スルあーさー・やんぐノ研究」參照。

15) 經濟學講義「人口ノ法則」ヲ見ヨ。

ずむ』ヲ斥クル所以ナリ。彼ハ國內經濟論トシテノ『都市建造辨妄』ニ於ケル對外經濟論トシテノ『貿易論』ニ於ケルト均シク共ニ進歩論者ナリ。大帝國主義者ナリ。而シテ又ばうあー教授ガ吾人ニ示メス所ニシテ謬ナクンバ彼ガ其『改貨議』(詳シク云へバ『新貨輕鑄論』)ヲフ予輩未見ノ書ニ於テ説ク所其要領ハ悉ク收メテ『貿易論』ニ在リ。故ニばいぼんノ真相ヲ究ムルニハ其『貿易論』一部ハ絶好ノ資料タリ。

『貿易論』ハ千六百九十年倫敦ニ於テ刊行シ、序文九頁、本文九十二頁ヨリ成ル一少冊子ナリト雖モ其内容ノ豐富ニシテ所論ノ剴切卓抜ナル之ヲ推シテ十七世紀經濟文獻ノ最大産物ノ一トナス。決シテ不可ナキヲ信ズ。彼ハ其書ノ趣意ヲ開陳シテ曰ク、『貿易ノ事ニ關シテ真相ヲ得ント欲セバ其全體并ニ各部ヲ合シテノ綜觀ヲ作ラザル可カラズ決シテ部分ノミヲ觀察シテ足ル可キニアラズ』ト。彼ハ謂ラク從來ノ外國貿易論ハ何レモ其一部ノ現象ノミヲ捉へ之ヲ直チニ移シテ全斑ト做シタルガ爲メ何レモ甚シキ誤謬ニ陥レリ。部分的觀察、而モ特殊利害關係ト相結ンデ國民福ノ大局ニ着眼セズ、是レ貿易ヲ獎勵セントシテ却テ之ヲ沮害シ國利ノ名ノ下ニ私利私益ヲ圖ルニ至ル所以ナリ、故ニ予ハ如何ニ不完全ナリトモ常ニ大局ノ上ニ立ツテ此問題ヲ考究セント欲スト。是レいぼん其志ヲ語ル所ニシテ而シテ予ノ見ル所ヲ以テスレバ彼ハ此ノ言ヲ十分ニ實現シタルモノナリ。彼ガやらんどん一流ノ商軍國主義ヲ斥ケテ真正ナル商國殊ニ海商國ノ國是ヲ取ル可キヲ

提唱シ武力主義ヲ排シテ平和主義ヲ力説スルコトあだむすみすト雖モ一言増減スルヲ得ザルモ
 ノアリ。而シテ此點ニ於テ彼方正面ノ論敵トナシタルハ實ニとます・まん其人ナリ。ばーぼん曰ク
 『和蘭ノ如キがえにすノ如キ地狹クシテ而モ民多ク國富ム所以ハ一ニ外國貿易ノ齎ラセル賜ニ外
 ナラズ。然ルニ英國ニ在リテハ未ダ外國貿易ヲ盛ナラシム可キ眞原因ヲ正解スルニ至ラズ。多クノ
 學者ハ商業ヲ以テ戰爭并ニ政治ノ從僕ト看做シ、戰爭ニ關係アリ之ヲ助ク可キ點ヨリノミシテ商
 業ヲ觀察スルガ故ニ常ニ謬見ニ落チタリ。古代ニアリテハリがゐるすノ如キ才人ニシテ猶ホ商業
 フ全然度外シテ政法ヲ考フルアリ。中世ニ至リテモまきあがえりーノ如キ卓見家ニシテ政治ノ道
 具トシテノミ商業ヲ觀察スルニ止ルアリ、而シテ世間一般ニ商業ハ國民ヲ懦弱ナラシムトノ謬レル
 見解ヲ基トシ唯ダ戰爭ニ必要ナル武器ノ供給上己ムヲ得ザルモノト看做セリ』¹⁷⁾更ラニまんを評シ
 テハ曰ク『貿易ノ真相ヲ正解シ居ル可キ管ナル商人貿易業者スラモ之ヲ解セザルカ又ハ自己ノ利
 益ヲ損ゼンコトヲ恐レテ其真相ヲ發見スルヲ欲セズ。一商人ナルまん氏ガ其『貿易論』ニ於テ論ズ
 ル所ハ完全ナル商人ヲ作ル可キ規範ヲ教ユルニ專ラニシテ國民全體ニ取リテ利益アル様ニスルニ
 ハ如何ニ爲ス可キカヲ論セズサレバ吾人ガ毎々商人ノ口ヨリ聞ク所ハ悉ク私利ノ爲メニ誤マラレ
 タル議論ニシテ其利害關係次第互ニ相矛盾セル主張タラザルハナシ』¹⁸⁾まんノ如キ身自ラ海外貿易
 ノ業ニ從ヒ其道ノ先覺者ヲ以テ目セラルル者ニテスラ猶ホ私人本位ノ見解ヲ脱セズ商人ノ利害ヨ

17) 前掲書第六頁
18) 同上頁

リシテ國家ノ外國貿易ヲ考察ス況ンヤ他ノ職々者流ニ於テヲヤト。ばーぼんノ此論聊カ酷ニ失セ
 リ、彼ハまんガ其著ニ於テ先ヅ論ヲ商人養成論ニ起シ商人ニ必要ナル條件ヲ細説スルヲ見ケまん
 ハ常ニ這箇ノ立場ニ在リテ一國商業ノ諸問題ヲ觀察スルモノト認メタルナル可シ、其ハ誤解ナ
 リ、速斷ナリ。まんノ本旨ハ決シテ商人萬能論ヲ唱ヘントシタルニ非ザルニトハ上段説ク所ヲ以テ
 明白ナル可シ。然リ然リト雖モまんハ未ダばーぼんノ如キ廣汎ナル寛宏ナル自由思想ニ進ミ居ラ
 ザリシ一事ハ之ヲ拒ムヲ得ズ。ばーぼんガ此痛所ヲ責ムルニトハ誠ニ當ヲ得タリ。彼曰ク、土耳其
 貿易商人ハ東印度會社ヲ非難シ Woollen-Draper ハ mercer ヲ攻撃シ、 Upholster ハ Cain-Chair-
 maker ニ反對シ或者ハ貿易商人ノ數多キニ過グトナシ建築者ノ多數ナルヲ難ジ、 Ale-house 多キ
 ニ失スト云ヒ或者ハ或貨物ヲ獨占業トセザル可カラストシ、他ノモノハ或商品ノ專賣ヲ必要ナリ
 トス。カクテ此等ノ論者其欲スル所ノ法律ノ發布ヲ見ルニ至ラバ次代ノ新進者ニ殘ル所ノ貿易ハ
 皆無トナル可シ。斯クノ如ク貿易ノ數、人、場所ヲ限ラントノ企テハ其口實トシテ如何ニ國民民
 福ヲ表榜ストモ結局貿易ヲ縮小スルニ終ルノ外ナケン¹⁹⁾ト。彼ハ此種ノ我利論ヲ根底ヨリ一掃ス
 ルヲ自家ノ天職ト考フ。茲ニ於テ『貿易論』ノ著アリ。

『貿易論』章ヲ分ツコト七(一)貿易ノ容體即チ商品論(二)商品ノ品質、分量(三)商品ノ價值及價格(四)貨幣
 信用、利子論(五)貿易ノ利益(六)貿易發達ノ原因(七)貿易衰頽ノ原因ト地代下落ノ原因是レナリ。ばう

19) 第六一七頁。

あゝ此書ヲ評スラク『今日マデノ經濟學史學者ガ毫モ顧ミザリシ此書ハ彼ノ同時代ノ學者ノ最大ナルモノ何レニモ劣ラザル卓見ヲ披瀝スルモノナリ』ト。ばーぼんノ論旨一面ハ外國貿易論ニシテ當時ノ英國ノ爲メニ固陋ナル『めるかんちりすむ』ヲ斥ケ進歩セル意味ニ於ケル『めるかんちりすむ』ヲ鼓吹スルト共ニ他面經濟生活ヲ根本現象ニ關シテ甚ダ傾聽ニ値スル考察ヲ試ムルモノニシテ今日ノ吾人彼ガ爲メニ啓發セラルモノ一再ニシテ止マラズ。是レ予ガ特ニ稍々詳細ニ彼ニ就テ語ラントスル所以ナリ。

七

ばーぼんハ『とれーど』ヲ定義シテ貨物ヲ作ルコトト一貨物ヲ他貨物ニ代ヘテ賣ルコトトナリトシ前者ヲ Handy-Craft Trade ト名ケ之ニ從事スル者ヲ Artificer トシ後者ヲ Merchandizing ト名ケ其人ヲ merchant ナリトシ、各々種類ヲ列擧シタル後『とれーど』全體ノ目的ヲ示シテ chief End of Business of Trade, is to make a profitable Bargain『とれーど』ノ主タル目的又ハ任務ハ收益ヲ得ヘキ取引ヲナスニ在リ²¹⁾ト云ヘリ。是レ即チぞむむばるとノ所謂『營利經濟』ノ謂ナリ、彼ハ此營利經濟ノ福音ヲ力説高唱スルモノナリ。彼ノ都市膨脹論然リ。彼ノ外國貿易論然リ。

商品ニ二種アリ自然の商品、人工の商品是レナリ、兩者トモ主トシテ之ヲ生ジ又ハ製スル國ニ取リテハ其國ノ Staple Commodity ト名ク。『すてーぶる』ハ風土氣候ノ異ナルニヨリ異ル。『すて

20) 前掲書第百十九頁

21) 前掲書第九頁

一ふる』ハ之ヲ二種ニ分ツ。自國産品外國産品是ナリ。自産』すてーぶる』トハ其國ガ自然的ニ且ツ最モ能ク生産スルモノヲ云ヒ、外産』すてーぶる』トハ外國ノ某地ヘノ獨占貿易ニヨリテ得ル外國品又ハ特殊ノ獨占技術ノ所産タル外國品ヲ云フ。Spices ハ和蘭ノ』すてーぶる』ニシテ硝子及紙ノ製造ハ之ニ似テすノ』すてーぶる』タルガ如シ。各國ノ自産』すてーぶる』ハ其國ノ富ナリ、是レ永久的ニシテ無盡藏ナリ地ノ獸畜、空ノ鳥、海ノ魚ハ自然ニ存在ス、礦物亦然リ。自然ノ』すてーぶる』ニシテ無盡藏ナル限り人工的』すてーぶる』モ亦無限ニ造リ得可シ。亞麻、羊毛、木綿、生糸無限ナレバ毛織物、リンネル、ヤリコ、精糸亦無限ナルガ如キ是ナリ。此ク考フレバとます。まん所論ノ一節ノ誤ナルコト多言ヲ須タズ。彼ハ節儉、質素及奢侈禁止令ヲ富國ノ手段ナリト説キ例ヲ設ケテ曰ク毎年千磅ノ收入アリテ別ニ二千磅ノ儲餘ヲ有スル人一ケ年千五百磅ツツ費消スルトキハ四ケ年ニシテ其貯蓄ハ空シカル可シト。然レドモ此ノ例ハ一個人ノ事ノミ之ヲ以テ一國ヲ論ズルハ不當ナリ。一個人ノ貯金高ハ有限ナリ一國ノ資源ハ無限ナリ一個人ノ貯金ハ盡クルコトアルモ一國ノ資源ハ然ルコトナシ。無限ナルモノハ節儉ストモ之ニ加フルニ由ナク浪費スルモ之ヲ減ズル能ハズ』ト。此言餘リニ簡ニ失シテ俄カニ之ヲ聞クトキハ詭辨ニ類スルノ嫌ナキニ非ズト雖モば一ぼんノ眞意ハ存シテ深キ所ニ在リ。彼ハまんガ國ヲ治ムルハ商人ガ産ヲ治ムルガ如ク國ヲ建ツルコトハ商店ヲ經營スルガ如クナラザル可カラズテフ商人本位ノ』めるかんちりすむ』ヲ唱フ

ルヲ淺薄ナリトシテ斥ケント欲スルモノナリ。故ニ兩者ノ根本的相違ヲ力説シテ其ヲ妄ヲ匡サントス。是レまんノ商國主義トばーぼんノ商國主義トノ相分ツ所ナリ。ばーぼん論ヲ進メテ曰ク、一國ノ自産すてーぶるハ其外國貿易ノ根柢ナリ、外國貿易ノ起ルハ先ヅ自國産ノ商品ヲ與ヘテ彼ノ商品ヲ得ルニアリ此外、外國品ヲ得ル道ナシ。故ニ自産品ヨリ來ル富ハ確實ナレドモ外國商品ヨリ來ル富ハ不確實ナルヲ免レズ。『或國ハ他國ヘノ獨占貿易又ハ或技術ノ獨占所持ニヨリテ外産『すてーぶる』ヲ得自産『すてーぶる』ニ劣ラザル利ヲ獲ルコトアル可シ。然レドモ其利タル獨占ニヨルモノナレバ不確實ナリ、他ノ國ハ同一場所ニ貿易スル道ヲ見出シ獨占ヲ無効タラシムルコトアル可ケレバナリ』。獨占特權ハ特ム可カラズばーぼんガ夙ニ此消息ヲ道破セルハ十七世紀ノ英國ニ在リテ比儔少キ卓見タラズンバアラズ。

商品ノ品質及分量論ニ於テ彼ハ更ラニ mystery of Trade ヲ論ジ兼テ商業道德ノコトニ及ブ即チ左ノ如シ。

Because the difference in the qualities of wares, are so difficultly understood, it is that the Trader serves an Apprenticeship to learn them; and the knowledge of them is called "Mystery of Trade;" and in common dealing, the Buyer is forced to rely on the Skill and Honesty of the Seller, to deliver Wares with such qualities as he affirms them to have: It is the Seller's Interest, from the Expectation of further Dealing, not to deceive; because his Shop, the Place of Dealing, is known: Therefore, those Persons that buy of Pedlars, and wandering People, run Great

Hazard of being cheated.²³⁾

商品ノ價值及價格ノ章ハばうあーガ歴卷ノ一章ト云ヒ又タ『價值并價格ニ關スルばーばんノ説ハ彼ノ同時代ノ何レノ學者ノ説ヨリモヨリ多ク近世ノ説ニ接近ス』ト云フ所ニシテ吾人細心ノ吟味ヲ促ガスモノナリ。彼曰ク、凡テ商品ノ價值ハ其使用ヨリ起ル、使用ナキモノハ價值ヲ有セズ、英語ニテ之ヲ They are good for nothing ト云フハ這般ノ消息ヲ傳フルモノナリ。使用トハ人ノ欲望ト必要トヲ充タスコトヲ云フ。人ハ生レテ二様ノ欲望ヲ有ス、身體上ノ欲望ト心意上ノ欲望ト是レナリ。此兩様ノ必要ヲ充タスガ爲メニ日ノ下ノ凡テノ物ハ有用トナリ從テ價值ヲ有スルニ至ルナリ。體慾ハ衣食住ノ三ニ分ルト雖モ其絶對的ニ必要ナルハ食ノミ他ハ習慣上通俗上認メテ必要トナスニ止ル。然ルニ心欲ニ至テハ無限ナリ。Man naturally aspires, and as his mind is elevated, his Senses grow more refined, and more capable of Delight; his Desires are enlarged, and his wants increase with his wishes, which is for every thing that is rare, can gratify his Senses, adorn his Body, and promote the Ease, Pleasure, and Pomp of Life (人ハ自然ニ向上ノ念アリ其心高マルニ從ヒ、嗜好ハ精緻トナリ樂ヲ求ムルコトヲ増シ、願望ハ擴張シ欲望ハ増進シテ凡テ珍奇ナルモノヲ求ムルニ至リ之ヲ以テ其心ヲ滿シ其體ヲ飾リ安易愉快榮耀ヲ進ム)。心欲ノ中最モ強キモノハ裝飾ノ欲ナリ如何ニ野蠻ナル民ニテモ Distinctionヲ示メス可キモノヲ求ム。獨逸學者ノ所謂

(23) 前掲書第十三頁

(24) 前掲書第十四頁

Anerkennungstriet (認識ノ衝動) ナキ人類ハ存セズ。殊ニ強キ色彩主トシテ赤色ハ彼等ノ好ンデ身ニ纏フ所ナリ(臺灣たいやる族ノ如キ盛裝ハ勿論日常ノ衣ニモ其色ハ皆赤色ナリ)。又タ得ルニ困難ナル珍稀ノ品ハ之ヲ得ル容易ナラザルガ爲メニ人ニ誇ルニ足ルトシテ甚ダ尊重セラル。

ば、ぼん、ガ、價、値、ハ、使、用、ヨ、リ、起、ル、ト、云、ヒ、『使、用、ナ、キ、モ、ノ、ハ、價、値、ナ、シ、』No use no Value ト云フ、ハ、單、ニ、物、能、ヲ、指、シ、テ、云、フ、ニ、ア、ラ、ザ、ル、コ、ト、ハ、彼、ハ、重、キ、ヲ、心、欲、ニ、置、キ、人、ガ、認、メ、テ、用、ア、リ、ト、ナ、ス、コ、ト、ヲ、用、ト、云、フ、ニ、徴、シ、テ、知、ル、可、シ。最後ノ學說ガ Anerkennungstriet (欲望ヲ充タスニ足ルト人ガ認ムル) ヲ以テ價値トナスト全ク同一趣意ニ出ヅ。彼レヨリ後レテ出デタルじよん・ろー、じよせふ・はりす并ニ此兩人ヲ承ケタリト見ル可キあだむ・すみす等ノ價値論ニ於テ使用價値ナクシテ交換價値ヲ有スルモノアリトシ、水ト金剛石トヲ好ンデ引例スルニ比スレバば、い、ぼん、ハ、遙、カ、ニ、多、ク、最近ノ學說ニ接近スルモノナラズンバアラズ。又タ其認識ノ欲望 Desire for Distinction ヲ説キ稀ナルモノ、得ルニ難キモノ、即チ價値多シテ尙バルル所以ヲ明カニスル又共ニ斯學現在ノ立場其儘ナリ。斯クシテ彼ノ價格論ノ眞面目ハ躍如トシテ吾人ノ眼前ニ在リ。其一節含蓄殊ニ深クレバ先ヅ原父ヲ左ニ出ス。

The price of wares is the present Value ; and ariseth by computing the occasions or use for them, with the Quality to serve that Occasion ; for the Value of things depending on the use of them, the Overplus of those wares, which are more than can be used, become worth nothing ; so that Plenty, in respect of the Occasion,

makes things cheap ; and Scarcity dear.

There is no fixt Price or Value of any thing for the wares of Trades ; The Animals, and Vegetables of the Earth, depend on the Influence of Heaven, which sometimes Causes Murrains, Death, Famine, and Sometimes Years of great Plenty ; therefore, the Value of things must accordingly alter. Besides, the use of most things being to supply the Wants of the Mind, and not the Necessitys of the Body ; and those Wants, most of them proceeding from imagination, the Mind changeth ; the things grow out of Use, and so lose their Value⁽²⁵⁾

(商品ノ價格ハ現在ノ價值ナリ而シテ商品ニ對スル機會ト其機會ニ從立ツ可キ商品ノ分量トナ比勘スルニヨリテ起ル。蓋シ物ノ價值ハ其使用ニヨルモノナレバ其商品ノ過剰ハ何等ノ價值ヲ有セズ、故ニ機會ニ對シ潤澤ナルトキハ物ハ安クナリ稀少ナルトキハ物ハ高クナル。

商品トシテノ物ニハ一定ノ價格又ハ價值ナルモノヲ存セズ。地球ノ動植物ハ天ノ影響ニヨリ豊凶常ナラズ從テ物ノ價值ハ變動ス。加之、多數ノ物ノ使用ハ身體ノ必要ヲ充タスヨリモ寧ロ心意ノ欲望ヲ充タスニアリテ此等ノ欲望ハ多クハ想像ヨリ出ヅ而シテ人ノ心ハ變化ス。カクテ一度用アリシ物モ其用ヲ失ヒ從テ價值ヲキコトトナル可シ。

ばーぼんハ價格ヲ以テ現在ノ價值ノ謂ナリトスルモノニシテ、使用價值ナキモノモ猶ホ交換價值即チ價格ヲ有スト云フガ如キ見解ニ與セザルモノナリ價格ハ物ノ機會ト之ニ對スル分量トノ比勘ヨリ起ルト云フハ即チ需要供給ニヨルト云フト同一義ナリ。供給ガ需要ニ超過スルトキハ過剰ヲ生ズ此部分ニハ價值ナシ價值ハ使用アルモノノミ之ヲ有スレバナリ價格ノ高低ハ此理ニヨリテ定マル。而シテ價格價值ニハ一定ノモノアルコトナク常ニ變動スルモノナリ物ノ豊凶ハ天之ヲ定ムルノミナラズ人心ハ常ニ變ズト。是レ明カニ「かのにすと」ノ *justum pretium* ヲ否定スルト共

ニあだむ・すみす一流ノ Natural price (normal price) 論ヲ排斥スル所以ナリ。其見識ノ卓出セルコト、今多言ヲ須キズシテ明ナラン。

斯ク一定ノ價格價值ナルモノハ之ヲ認ム可カラザルト共ニ凡テノ物ノ價值ハ之ヲ推定ス可キ方法ナキニアラズ。之ヲ分テ二トス、曰ク、商人ノ價格、工人ノ價格是レナリ。商人ノ價格トハ生産實費、諸掛リ、及利子ノ總計ヲ云ヒ工人ノ價格トハ原料ノ價ニ加工ノ時間ヲ通算シタルモノヲ云フ。時間ノ價ハ一樣ナラズ技術ノ差異及工人ノ熟否ニコリテ定マルト。彼ガ時間論ハまるくすノ『社會的必要勞動時間』論ト似タル所タリ。而シテば一ばんノ茲ニ云フハ總ジテ供給價格ノコトタル勿論ナリ。其點ニ於テハ今日ノ學說ノ教ユル所彼ノ所論以上ニ出ヅルコトナキナリ。彼ハ商人原價中利子ヲ加算スル理由ヲ説テ『利子ハ商人ガ依テ以テ商業ス可キヤ否ヤヲ定ムル定規ナリ』Interest is the Rule that the Merchant trades by ト云ヘリ。商人ニ取リテノ利子ハ即チ工人ニ取リテノ勞動時間ナリ、商品ノ價格下落スルトキハ商人ハ利子ヲ損シ工人ハ時間ヲ損ス。而シテ一切ノ價值ノ最良ノ判者ハ市場ナリ。市場ハ賣手ト買手、商品ノ分量ト其機會トノ相知ラレル所ナレバナリ、故ニ曰ク Things are just worth so much, as they can be sold for, according to the old Rule, Valet quantum vendi potest (凡テ物ハ其賣ラレ得ル丈ケノ價值アルコト古言ニ「賣リ得ル分量丈ケ價值アリ」ト云フコト當レリ)

彼が價值價格論ノ徹底セルコト概ネ斯クノ如シ。然レトモ其貨幣及利子論ニ至リテハ更ラニ驚異ス可キモノアルナリ。彼ハ劈頭貨幣ニ定義ヲ下シテ曰ク、*money is a Value made by a Law*。And the Difference of its Value is known by the Stamp, and Size of the Piece。貨幣トハ法律ニ依リテ作ラレタル價值ノ謂ナリ。其價值ノ差ハ刻印ト形ノ大小トニヨリテ知ラルト。而シテ謂ラク、貨幣ガ金又ハ銀ヲ以テ作ラルコトハ必ズシモ肝要事ニ非ズ、何トナレバ其價值ハ一ニ法律ノ定メヨリ起ルモノナレバ刻印ヲ捺ス金屬ノ何タルカハ問フ所ニアラザレバナリ。money hath the Same Value, and performs the same Uses, if it be made of Brass, Copper, Tin, or any thing else。(27) 貨幣ハ之ヲ作ルニ眞鍮、銅、錫、又ハ他ノ何物ヲ以テスルトモ同一ノ價值ヲ有シ同一ノ用ヲ盡クス。唯其法律ノ力ハ及バザル所(外國)ニ至リテ其金屬ノ何タルカハ意味ヲ生ズ。斯クノ如キ所ニテハ刻印ノ捺サレタル金屬其物ノ價值ガ貨幣ノ價值タリ。即チ外國ニ在リテハ自國貨幣ハ其作ル金屬ノ價值丈クノ價值有スルニ過ギズ法律ノ附與シタル價值ハ當然存スルコトナシ。故ニ凡テノ外國貨幣ハ重量ニヨリテ授受セラレ一定ノ價值ヲ有セズ其金屬ノ價格ノ變動ニ伴フテ或ハ騰リ或ハ下ルト(28) ばうあーノ記スル所ニヨレバ『改貨議』ニ於ケル彼ノ所論モ全ク同一趣ニ出ヅト云フ(29) ばうあーハばーぼんノ此論ヲ以テ誤ナリトシ唯ダろつくノ共同合意說(貨幣ハ其始メ人民ノ共同合意ニヨリテ作ラルトノ說)ヨリハ勝レリト云フ。ばうあー教授ノ此論ハ未ダくなつぶ氏ノ國定説出デザ

(27) 前掲書第十六頁。

(28) 第十七頁。

(29) 同上頁。

(30) In order to prove the expediency of his proposal, Barbon repeats his doctrine of money as given in the *Discourse of Trade*, laying stress upon the maxim that its Value is not given by the quantity of Silver in each piece, but by the authority of government. Loc. cit. P. 121.

ル前ノ通説ノ見地ヨリ下シタルモノナルコト勿論ニシテ今日吾人ノ立場ヨリシテハ未ダ俄カニ斯ク速断スルヲ許サレザルナリ。抑モ貨幣ノ價值ヲ proclamatatorisch ニ説明セントスル試ミハ必ズシモくなつて始マレルニ非ズ、否、ば「ぼん」ト雖モ破天荒者ニハアラズ彼ノ前ニたゞあんどちアリもんだなりアリ、るいす。ろば「つ」アリ其他同説者少カラズ。但シ固定又ハ政權説ハ共同合意説ト混同ス可カラズ、兩者ハ形太タ似テ實ハ甚ダ異ル。共同合意説 (Convenienz Theorie) ハ必竟社會契約説ノ延長ニ過ギスシテ如何ナル意味ニ於テモ断ジテ今日ノ學問ニ許ス可カラズ。之ニ反シ政權國定説ハ一度英國ノ金屬尊重説ノ爲メニ掩ハレタリト雖モ(めたりすとハ一ハ金屬尊重ノ「めるかんちりすむ」ノ餘波ヲ受クルモノニシテ又一ハ十八世紀末ノ英國不換紙幣時代ノ弊害ニ懲リ懲ニ於藥二者而吹レ齋モノナリ。) 今日ニ至リテハ却テ眞理ニ近キモノトシテ認メラレントス。故ニ予ハかゝる。めんが「ガ」兩者ヲ同一視シタルヲ断ジテ謬解ト見ル。ば「ぼん」ニ取ル可キハ其政權説ガ毫モ社會契約ノ臭味ヲ帯ビズシテ而シテ極メテ透明ナルコト是ナリ。彼曰ク、法律ガ定メタル價值ガ即チ貨幣ノ價值タラザルナラバ英國ノ「くらうん」ハ今五志二片ノ價值アル可キナリ、何トナレバ「くらうん」を溶解スルトキハ之ヲ外國ニ齋ラ、ストキハ其價アレバナリト。彼ハ成語ヲ以テ言表ハサザルモ對外貨幣ト對内貨幣ノ別ハ明カニ之ヲ知り前者ニ對シテ金屬價值説ヲ認メ後者ニ對シテハ政權説ヲ取ルコトしゆるつ以下最近學者ト異ナラズ。カクシテ彼ハ其根本地ニ立チテ「める

(31) Grundsätze der Volkswirtschaftslehre. Wien 1871. SS. 255-260. Fussnote.

かんちりすむノ金銀過重ノ謬見ヲ痛切ニ批駁シ貨幣金屬説カ其謬見ノ本源ナルコトヲ指摘セリ。曰ク世人ハ金并ニ銀ニ對シ甚ダ大ナル尊重ノ念ヲ有シ爲メニ金銀ハ固有ノ價值 Intrinsic Value ヲ有スルモノトシ凡テノ物ノ價值ヲ此ノ固有價值ニヨリテ算勘シ得可シトナス。此誤謬ノ依テ起ル所以ハ貨幣ガ金銀ヲ以テ作ラルルヨリシテ彼等ハ貨幣ト金銀トノ區別ヲナサザルニ在リ。然レトモ貨幣ハ法律ニヨリテ確定ノ價值ヲ附與セラレアルモ金銀ハ然ラズ其價值ハ銅、鉛、其他凡テノ物ト同ジク不定ナリ。兩者ヲ同一視スルハ全然誤レリト。又謂ラク金銀ノ價值大ナルハ其ガ稀少ナル爲ナリ、若シ昔ヨリ發掘セラレタル金銀ニシテ費消セラルルコトナク悉ク世ニ存シタリトセンカ今日ノ如ク金銀ニ價值アルコトナカル可シ。サレバ『哲學者ノ石』ヲ求ムル鍊金術ハ自家矛盾ニ落ツルモノタルヲ知ル可シ彼ノ術者ノ云フ如ク容易ニ金ヲ作り出スヲ得ルニ至ラバ金ノ價值ハ輕小トナル可ク、從テ鍊金術ヲ施シテ金ヲ作ルハ徒勞ニ歸スルノ外ナカラシ。金屬ガ其ノ價值ヲ維持スル所以ハ其ガ稀ナル爲メナリ。其固有ノ性質ニ基クニ非ズ。何物ト雖モ確定不動ノ價值ヲ有スルコトナシ、凡テノ物ノ價值ハ時ト所トニヨリテ異ルト。彼ノ貨幣論ノ時流ヲ抜キ嶄然トシテ獨得ノ慨アル此クノ如シ。而シテ更ラニ此貨幣論ハ彼ガ取テ以テ外國貿易論ノ基礎トスル所ナルヲ知ルニ及ハバ吾人ノ敬重ノ念ハ更ラニ一段ヲ加フ可キナリ。乞フ予ヲシテ以下少シク詳説セシメヨ。